

ディーラーズ・マインド

「レンジの計り方」



<https://jp.tradingview.com/x/inBQTpSd/>

よくニュース等でも聞く“レンジ相場”であるが、「実際にはどのような状態を表しているの？」という質問を受ける事がある。

多くの理由は、①そもそもの背景が分からない、②その相場環境を利用して稼ぎたい、との事。

確かに・・・、“レンジ”というワードをニュース等で聞く時は決まって「今日は材料難の中、レンジ相場となりました」といった過去の話や結果論が 9 割で、朝のニュースでコメントされる「本日の予想レンジ」も所詮 ATR (市場が一日にどのくらい変動するかを示す数字)

が教えてくれる程度の予想。

両方とも様々な情報やリスク管理のツールとして利用はできるが、根本的なところでイマイチ理解できない、と感じるかもしれない。

レンジの計り方というか、一つの例として、どの様に上下を決めているかを少しお話したい。

まず、①「そもそもの背景が分からない」であるが、確かに何をもって背景とするかと言うのは深く難しい課題であるが、私が普段から材料視しているのが、ボックスが始まる前のトレンド相場になる。

より具体的に言うと、A) **トレンド相場が始まってから一旦の終わりを迎えるまでの期間**、そして B) **その間の中値 (後のサポートになる)**、C) **そのマーケットの中期スパンの変動率**、のたった3つを考える様にしている。

上図チャートで見ると「1」がトレンド相場に該当し、その期間の A-B-C を求めるが、重要な事として、

- ◎ トレンドの入り口は、ファンダのシグナルである事 (需給要因、つまり息が長い)
- ◎ 一旦の終わりは、内部と外部要因である事 (内部と外部での限界を知る)、

を押さえておく事が必要で、水色が前者、黄色が後者に該当する。

- A) 高値安値 (約 \$ 30-50)
- B) 中値 (約 40、後のサポート)
- C) 変動率 (約 \$ 10)

結果として上の数字が揃ったところでレンジ相場に移行する事になり、「2」のレンジ相場に該当する期間においては、①抵抗線が約 \$ 50、②支持線が約 \$ 40、③中値が約 \$ 45 の中で推移する予測が、「1」と「2」の境界線であるブルーの縦軸 (6/13 頃) の頃に可能となる。

そして次の「3」では+\$5程度のレンジ切上げとなっているが、**ポイントとしては、トレンドが形成される時、または形成されないけどもレンジが切上げられる時は「ファンダメンタル」が背景にある傾向は留意しておきたい。**

さて、次に②「その相場環境を利用して稼ぎたい」であるが、例えば、皆さんが誰でも使え

るツールで MAC-D というものがあるが、よく“ダマシが多い”、“レンジに弱い”、などなど聞かれるかも知れない。

それらは見る人が異なれば、感じ方も何も全てが異なる為、私もここでは深くは追及しない。

あくまで一つの参考としてレンジ（チャート上部）と MAC-D のポイント（チャート下部）を見て頂きたい。

MAC-D は山と谷を繰り返す、通常は、ハイ・ローをヒットしたポイントを売買のタイミングの一つとして見るが、ベストと思ったポイントでショートしたものの延々と価格が上がりに続ける事もある。

しかし、マーケットが今現在レンジであるという「裏付けと上下幅」を知っているのであれば、その“レンジ”と“オシレーター（ここでは MAC-D）”の関係性から、最も優位性のあるポイントが明確になる。

それらを示したのがチャート下部の各ポイントになるが、より突き詰めると、新規売買・手仕舞い売買・のどちらかも確認できる。

私自身、長年運用をしても、この“レンジの概念”と裏付けが分からなければ決して稼ぐと事は出来なかったと思う。

稼ぐ事は出来たとしても、生き延びる事は出来なかったのは確かである。

因みに、この見方・考え方は、私が昔の運用会社時代にプロの運用者育成のカリキュラムの一つとして利用してきた内容になるが、皆さんも宜しければ是非参考にして頂きたい。

—このレポートに関しまして—

当レポートの著作権はすべてバーグインベスト株式会社（Burginvest Co.,Ltd.）に帰属し、「トレーディング・カレッジ」外への転載および無断引用は固くお断り致します。

また当レポートは、会員個人のみが閲覧いただけ、法人内・コミュニティ外での回覧・シェアは固くお断りしております。（後日、回覧人数分の料金を申し受けます）。無断の転載などを見つけた場合、著作権者までご連絡ください。

また、このレポートは、市場の研究とその情報の提供を目的としたものです。投資方針や時期選択等の最終判断はご自身で判断されま
すようお願いいたします。なお、本サービスにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、バーグインベスト株式会社は一切
の責任を負いかねますことをご了承願います。

ご理解をいただきまして、ありがとうございます。